

館報

明るい
未来へ



3月号

No. 815

令和6年
(2024年)

やまがた



働姿

ねばねば いきます
150th
anniversary
山形村開村150周年

温故知新

なかむら まこと
中村 誠さん (上大池)

苗木生産(農業)を主に行っている誠さん。取材したこの日は、ハウスでカラマツ苗の選別を行っていました。畑での栽培から施設栽培に転換して、^{にっしゃひれい}日射比例(太陽光の当たる比率)に応じた散水を、土壌の水分量などに考慮し自動化を進めています。「コンピューター管理での施設栽培を行っていますが、基本となるのは先人の生産者さんから歴代受け継がれている苗木作りの知識が、最後に物を言う一番大事なことと実感しています」と話をしてくれました。

(2月20日 村内作業ハウスにて)

山形保育園鑑賞会

2月21日(水)、山形保育園にて、松本市に拠点を置く『劇団やまんば』の皆さんをお招きして、未満見向けの鑑賞会が開かれました。たくさんある作品の中から、今回は子ども参加型の劇『くーちゃんのおさんぽ』が演じられ、舞台セットに子どもたちが自らお花やいちごを取付けすることでお話が完成します。「われ先に！」と舞台前も大混雑。曲に乗って体を揺らし、時折笑い声上がり終始楽しそう



な子どもたちの表情が印象的でした。

告知板

令和6年度 生涯学習 カレンダー 配布開始!



- 連絡班加入世帯の方
この館報と一緒に連絡班長から配布されます。
- 連絡班未加入世帯の方(敷地内同居含む)
教育委員会から送付されるハガキと引き換えでトレーニングセンター窓口にて無料で1部配布します。
- 二世帯住宅など、2部以上欲しい方
トレーニングセンター窓口で1部450円で販売しています。

生涯学習カレンダーは村公式ホームページでも公開しています。



お問い合わせ
山形村教育委員会 ☎0263-98-3155

鉢盛中学校2年生 修学旅行

2月27日(火)から29日(木)までの3日間、鉢盛中学校2年生が修学旅行で奈良・京都へ行ってきました。修学旅行期間中は天候にも恵まれ、古都に今も残る建造物や風習に触れることができました。生徒たちは、改めて日本文化のすばらしさを体感し、仲間との楽しい思い出がたくさんできました。



八坂神社にて



清水焼絵付け体験



青春の1ページ

おいしいコーヒーの

淹れ方講座

2月20日(火)、公民館講座の活き生き塾とおやじ塾合同で『おいしいコーヒーの淹れ方講座』が行われました。塩尻市に本店がある『三澤珈琲』代表取締役の三澤優治さんを講師に迎え、コーヒー原産地での体験談を聴講し、世界のコーヒー情勢を学びました。また、参加者同士でコーヒーを淹れ、飲み比べしながら酸



味や苦味の違いを楽しみました。

山すそ

日本には暦年の他に年度という1年の区切りがある。大晦日から元旦へかけての冬の年越しも風情があり良いものだが、3月から4月へかけての年度も卒業、退職や入学、入社など次へのステップにつながる期間でこれまた良いものである。3月は別れの季節である。「出会いもあれば別れもある」なんて言葉があるが、私は何だか少し寂しい気持ちや下を向いてしまいうそであまり好きではない。確かに言葉の通り事実であり、受け入れなければならぬこととは理解している▼しかし私は考えをこう変えてみた。「別れもあればこれから素敵な出会いもある」こうやって前向きに考えれば、次のステージへの希望や明るい未来が開ける気がする。そして、この言葉はこれから卒業を控えたすべての方へ贈りたい▼時は前になしかな進まないから人間も同じく前を向いて歩んでいこう。4月から始まる新たな青春のステージへ突き進もう。いくぞー!

国際交流講座

フィリピンについて 【2月10日(土)】



フィリピン出身のピラヌエバ・レーブさん(松本市)を講師に招き、文化について学びました。フィリピンはタガログ語が公用語ですが、180以上の言語が話されているそうです。

今回、取材した際、印象に残ったエピソードが2つありました。

日本で片方のまゆげを上げる行為は相手に不快感を与えてしまうことにレーブさんは驚いたと言います。「フィリピンでは両方のまゆげを上げることを『わかった!』というニュアンスで使っています。日本だと相手には『怒っている?』と勘違いされてしまいます」

また、「いいよ」と答えられるとフィリピンの方は判断に苦慮するようです。この「いいよ」が快い承諾なのか、否

か場の空気を読むのが難しいとのこと。

後半の座談会では文化の違いについての交流が和やかな雰囲気で行われました。

スリランカについて 【2月23日(金)】



青年海外協力隊として内戦中の1999年から活動された西山真由子さん(朝日村)が、文化や現地の様子について講演しました。スリランカはインドの南東にある島国で、セイロン(島)という名称ならご存知の方も多いと思います。国名は、スリ【光り輝く】ランカ【島】との意味があり、言語はシンハラ語、タミル語、英語の3言語が共存。宗教は仏教、ヒンドゥー教、イスラム教の3教が信仰されていますが、意外にも仏教が多数派のようです。気候は熱帯地域に属し、セイロン茶葉や超激辛のカレーが有名です。

スリランカでは首を横に振るのが『YES』の意味で、仕草が日本と真逆なのでご旅行の際はご注意ください。また、朝昼晩の共通挨拶「アーユボーワン」は大切な言葉です。合掌のポーズでこの挨拶ができれば、現地で必ず役に立つと話されていました。

オーストラリアについて 【3月2日(土)】



令和5年1月から約1年間、西オーストラリア州ダンズボローにご家族で短期移住された岡上洋さん、真梨さん(清水高原)よりお話しいただきました。

樹木の管理を専門とする洋さんは、5年前にオーストラリアで行われたツリークライミングの世界大会に出場したことをきっかけに、独自の生態系や樹木に対する高い技術に魅了され、「海外で働きたい」という夢を叶えるため今回の渡航に至ったそうです。

講座では、就労ビザ取得までの過程や日本との物価の違い、脱プラスチック化など環境への取り組みのほか、現地の公立小学校に通っていた息

子の八起くん(小1)からも学校生活の紹介があり、参加者は多彩な内容に聞き入っていました。

チャレンジ講座

バスケットボール

2月11日(日)は山形小学校で、3月3日(日)はトレニングセンター体育館にて3人制バスケット(3x3)信州ダイナブラックスの武井弘明さん(松本市)を招き、バスケットボールに必要な動きをスキップなどを用いながらゲーム感覚で体験しました。最終回では武井さん対子どもたちの試合も行い大いに盛り上がりました。



ボールゲーム

2月17日(土)から4回にわたり、ふれあいドームにて松本山雅FCスタッフの今井昌太さんをはじめスタッフの皆さんを招いてボールゲーム講座が開かれました。ドイツ発祥

の『バルシューレ』というボールゲームを行いました。楽しそうにボールを追いかけるながら、球技に親しむ姿が印象的でした。

走りの学校

2月17日(土)と3月16日(土)にふれあいドームにて、YouTubeでも有名な「走りの学校」公認インストラクターの松田淳さん(辰野町)を迎え、山形村初開催となる走りの学校講座が行われました。

松田さんから「足の速さは才能じゃありません。継続して走るを学べば、足は速くなるし、自信もつきます!」とアドバイスがあり、参加した約30人の児童は真剣な眼差しで楽しみなが足が速くなるテクニクを学んでいました。



チャレンジ講座は、公益財団法人ライフスポーツ財団の『子ども活動支援金』を活用した事業です。

卒業おめでとう!



6年1組
38名
〈担任〉
島田 英一郎
先生

イラストレーターになってみんながすごいと思うようなイラストをかきけるようになりたい。 ま青柳 雪音	ゲームプログラマーになりたいです。 池上祐馬	デザイナーになって皆が楽しめるような物を作りたい。 池田三志	野鳥の博士になってたくさん鳥を調べて観察をしたい。 石川 心子	プロ野球選手になって早くはじめる選手に憧れて世界中に自分のことを知ってもらいたい。 楠田 心暈	プロサッカー選手になって皆を笑顔にしたい。 井上太祐	ゲームプログラマーになってみんなが楽しんでできるゲームを作りたい。 上野智生	山奥の者になってお人形を壊したい。 色々とゲームをやるように見えてほしい。 上原 昌也
デジタルイラストレーターになって色々なイラストを描きたい。 大月 湧典	快適な生活を提供できる建築士 上後 恭平	IT系の会社に勤めてシステム開発などをやりたい。 川上 遼真	看護師になってたくさんの人を助けて笑顔にしたい。 澤野 ひとこ	プログラマーになって面白いゲームを作りたい。 住吉 優希	人を助ける医師になりたい。 須山 凌	みんなに喜んでもらえることをしたい。 竹内 栄実	人のためになることをしたい。 田中 紘
図書館司書になって本をみんなに紹介したい。 田原 優梨	eスポーツの選手になりたい。 山口 陽翔	プログラマーになってインターネットももっと便利なものにしたい。 中川 結実	私は保育士になって子どもたちみんなを笑顔にしたい。 中村 直衣	野球選手になってかっこよく活躍する子とともにかっこよくしたい。 橋詰 拓空	プロサッカー選手になって世界で活躍する。 平林 怜	みんなが笑顔になる。 おいしい。 パン屋さん 布野 桃乃佳	
管理栄養士の資格をとって食や料理に関係のある仕事に就いてみんなを笑顔にしたい。 藤原 みう	美容師になって家族やいろいろな人を喜ばせたい。 古畑 咲絵	日本で活躍できるバスケット選手になりたい。 堀内 陽生	ITプログラマーになって自分の好きなゲームの制作に関わりたい。 木間 陽大	サッカー日本代表になってW杯で優勝したい!! 宮沢 春陽	YouTuberになりたい。 百瀬 歩	英語を勉強しながら、医療関係の仕事に就いて病気など苦しい人たちの助けになりたい。 山口 花梨	人の助けになる研究をしたい。 研究九者になりたい。 吉田 雅敬

山形小学校6年生



6年2組
38名
〈担任〉
松田 歩
先生

プログラマーになりたい 上條 真虎	世界に通用するシステムエンジニアになる 上條 真太郎	世界中の色々な宝石を集めてみたい。 小野 真宙	ピアニストになりたい 奥原 菜美	獣医師になりたい 大月 梨瑚	美容師になりたい 岩佐 笑瑠	歌手になること。 伊藤 来望	地域のボランティアをしたい 芒 井龍斗	美容関係の仕事につきたい。 相原 千愛咲	大企業の幹部の人になる。 樽 召龍	和菓子職人になりたい 小林 希衣	お金がほしい 芒 夕歌	お金の払いっぱい 中村 春陽	友達と勤画をとりたい 中村 美空	コンピーターにくわしくなりたい 中川 愛美	美容師になりたい 中川 愛美	eスポーツ選手 永井 葵	マンコのWGかSHになる 平沢 僚汰		
有名絵師になる 利根川 眺	平和に暮らす 芒 井叶	薬剤師になりたい。 高橋 琉成	イラストレーター 柴田 心愛	バスケットボール選手 塩原 勇人	子クラブに動画をまじこころうしたい 小林 陸人	地球のボランティアをしたい 中村 希道	海釣りしたい 根橋 久真	道各工事を する人になりたい 野口 恭平	保育士になりたい 早川 晴	医者になって困っている人をたくさん助けたい 早坂 潤哉	全部のスポーツをできるようにしたい 林 柳成	自分の力を開きたい 宮澤 蒔	鉄を扱う仕事に就く 水谷 羽瑠	バレーボール選手 松橋 龍生	人を笑わせる仕事をしたい 坂上 悠志	パソコンエンジニアになりたい。 陸橋 美季	美容師になりたい 山岡 美月	プロ野球選手になってソフトバンクホークスにはいる。 佐野 和夫	美容師になりたい 山岡 美月

みんなの人権 105

優の風景 56

テレビ画面の“×××”…あれはどういう意味?…『言葉と人権』…縁側のお茶のみ話から

◇先日、近所の知人たちとお茶のみ話をしてきた時のこと。曰く「農閑期のこの時期、テレビでバラエティ番組や時事放談をよく見るんだけど、時々ま出演者の口元に×××の記号が現われたり、音声が消えたりすることがあるが、あれはどういう意味なんだろう?」と。別の知人も「そういういえば、番組司会者が『ただいまの放送の中に一部不適切な発言がありましたことをお詫びいたします』と言う場面もよくちよく見受けるね」と。ラジオの朗読番組や古典文学の後書きにも、「今日の人権意識に照らして、不適切と思われる語句が含まれますが、作品の歴史性に鑑み原文のまま使用しました」と断りが入ることなど、しばらく『言葉と人権』談義が続きました。そして、どこからともなく「どうもあの×××は『現在の人権意識や公序良俗に照らして、不適切と思われる発言』だったらしいよ」との声◇ここ数年、私たちは、コロナ禍の狭い環境や限られた情報の中で『言葉少ない』生活を強いられている間に、思いがけない思い込みや決めつけをしてしまっていたようです。無意識のうちに刷り込まれた記憶や言葉が、知らず知らずの内に偏見や差別に繋がってしまっていました◇現在でも「単身赴任中・医師・俳優」といえば男性を、「保育士」「看護師」といえば女性を思い浮かべるとい調査もあるとか。今年度も、幾つかの地区公民館で『性の多様性』や『言葉のリフレミング(言い換え)』などをテーマに人権研修会が開かれました。言葉の単なる言い替えだけでは本質的な差別解消にはなりません、言葉に敏感になることで、その言葉が象徴している現実の差別問題に気付き、その言葉によって苦しんでいる人々の思いや願いをくみ取ろうとする姿勢は、人権意識の高揚に繋がっていくように思います◇具体的な差別事象が多様化している今、『差別の現実』に学び、共に寄り添い支え合う』という人権教育の不易の精神を、令和時代の我が村でどう具体化していくのか。ウエルビーイングな『ムラの香り』づくりに向けて、生涯学習のなかでも、『心の錯落とし』の研修は繰り返し続けていく必要があるそうです。(令和6年3月 M.H. 記)

分館イベント 活動記録

3月2日(土)、下竹田公会堂にて下竹田分館主催の『春のつどい』が行われ、約30名の参加者が集まりました。山形村教育委員会事務局から講師を迎え、第1部が人権学習会、第2部が郷土の歴史について学ぶ2部構成で企画されました。第1部の人権学習会では人権担当の小井戸あやかさんから『LGBTQって?』をテーマにした。小井戸さんからは「無意識で差別をしてしまっているかもしれない。まず、知ってもらおうことが大切」と参加者へ伝えていきました。第2部では、発掘調査を担当している和田和哉さんから『山形村の遺跡発掘』をテーマにした。最後に質問の時間が設けられましたが、多数の手が挙

熊&鹿について学ぶ

2月18日(日)、トレーニングセンターにて、Yふるさとレンジャー活動が行われました。外での活動が多いYFRですが、この日は信州大学山岳化学研究拠点助教 瀧井暁子先生をお迎えして、ツキノワグマとニホンジカの生態についてレクチャーを受けました。

普段の活動では学べないディープな話に聞き入るYFRの皆さん。先生が持参してくれた動物の骨やはく製、



フンの内容物などを前に、たくさん質問が出ました。豊富な知識でその一つひとつに丁寧に答える瀧井先生と、興味がないYFRの皆さんで楽しい時間となりました。



がり参加者の関心の高さを物語っていました。



- 塩原 日南乃 陽平 上竹田
植田 律生 剛士 上竹田
高山 陽向 淳太 中大池
小浦 葉瑠 志のぶ 小坂
おめでた字・題
田村 捷子 86歳 上大池
住吉 耕三 85歳 小坂
野口 路子 91歳 下竹田
上條 智佐雄 86歳 中大池

サイレンアンケート結果発表

山形村のボーとは

お待たせしました！1月下旬から2月末まで行ったアンケートの結果です。

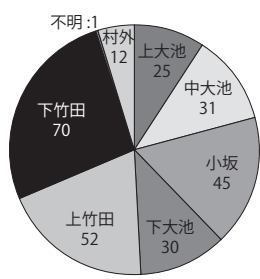
あらかじめお断りしておきますが、役場のサイレンについてはすでに村政で存続が決定されており、今回の結果で何かしらの対応があるものはありません。しかしながら今後の参考になる可能性はあると思います。



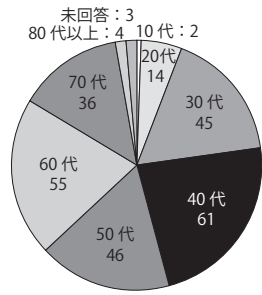
幼少期から村で暮らしていると役場のサイレンは防災のみならず生活の一部になっていて、昼のサイレンを聞けば「おっ！そろそろお昼か」と何の疑問もなく思いますし、子どもの頃遊びに行く際に家族から「ボーが鳴ったら帰ってきなさい」と言われた子どもの頃の経験など、ありふれた日常と日常会話にも溶け込んで存在となっている人が多いのではないのでしょうか。しかし、一部で時代にそぐわないのではないかという意見も出てきています。

これまでも館報ではさまざまなアンケートを実施してきましたが、数十件も集まればその内容に関心があるだろうという印象でした。今回は266件の声が寄せられ、必須としなかった最後の自由記載も7割の方が入力されているのを見ると、現在、この件の関心が極めて高い証明となつていきます。そして、忌憚のない声にハツとさせられました。サイレンに対して村民がどう感じているのか、客観的に結果を分析し、可能な限り寄せられたご意見を紹介します。

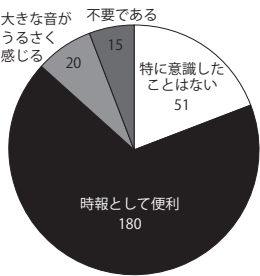
Q1 居住地区【人】



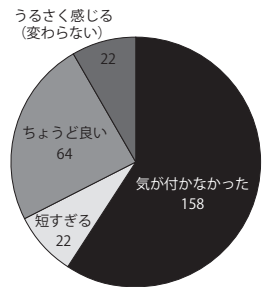
Q2 年代【人】



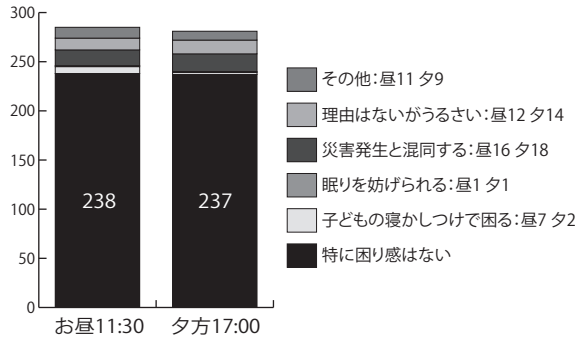
Q3 サイレンについてどのように思いますか【人】



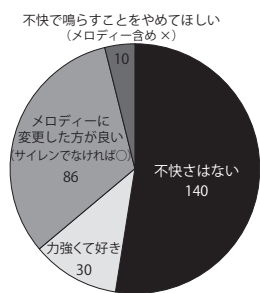
Q4 吹鳴時間が36秒から24秒に短縮されました【人】



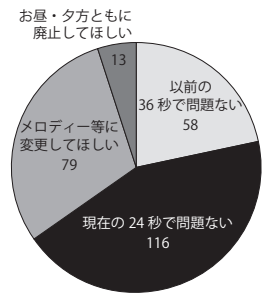
Q5-Q6 サイレンでの困り感【件】(複数回答)



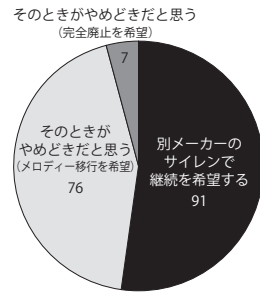
Q7 サイレン音の不快感【件】(複数回答)



Q8 吹鳴時間を短縮して継続する方針について【人】



Q9 現サイレンは部品がないため修理ができないようです【人】(継続希望の方のみ回答)



地区、年代とも満遍なくご回答いただきました。時報としての認知が圧倒的で、便利さを感じている声が多く、吹鳴時間の短縮は好意的に受け入れられているようです。今後、故障が起こった際の後継にもサイレンを推す声は根強く、完全廃止を望むのは少数でした。また、現在のサイレンをメロディーに変更してほしい声も3割程あり、興味深い結果となりました。

● 恐怖感があり、気味の悪い音。サイレンは警報であつて時報ではない。平和な村にふさわしくない。緊急時、災害時にも同じサイレンが流れるのでしょうか？

● 引越してきた当初は空襲かなにかかと思つて怖かつたので、(転入の時)事前に知らせておいて欲しかったですが、今では生活の一部ですし、無くならないで欲しいです。

● 非常時に使用するサイレンであれば、定時使用がメンテナンスの意味合いを持つように思います。普段使わず、いざというときに鳴らないのでは意味がありません。《中略》うるさいかどうかという問題ではない気がします。《後略》

● サイレンは嫌な事を思い出すため、音楽にして欲しいです。毎月15日はサイレン、その他はメロディーなど秒数を減らすのではなく回数を減らすことはできないのかなとも思う。

Q10 自由記載

※一部補正と抜粋があります。



- サイレンは時報として便利に感じていました。どちらかというと、時々夜8時頃に鳴る消防関係？のサイレンに子どもが反応するので、そちらを流す時間帯を早めるなどしてもらえるとありがたい。
- 何故問題視されているのか、当たり前になつていたので少し不思議な感じがする。
- 子供に、ボーが鳴ったらお昼ご飯だよ、ボーが鳴ったらお家に帰ろうと、伝えられる為必要!!
- 時代の変化はあるにしろ苦情が来たから廃止にするのは違うと感じる。基本的に賛成してる人はわざわざ声をあげない。その点をしっかり理解することが大切。
- 農家が多く、畑作業中に昼夕方とも時間の目安として長年親しまれて来た。大変役立つっている。豊かな農村を指し、変えないでほしい。
- 昔からある日常の音なので無くさないでほしい。

70年の音跡 —サイレンは騒音か—

端的に言えばサイレンの音が騒音か否かが着目点になりません。音の感じ方は人それぞれですが、アンケートでは大多数が好意的、または気にしていないという結果になりました。集計を細かく見ると役場の近所だからうるさく感じるといったことはなく、不快に感じている人は各地区で見受けられました。年代もバラバラで関係がありません。全ての書き込みを読んで感じたことは、嬉しかった時も辛い時も決まった時間に絶え間なく鳴り続けたサイレンの音が、村民個人の思い出の中に強烈に刻まれているのではないかと感じます。率直に言えば愛されています。本当に無骨な音ですが、これだけ多くの人に愛されるのには、村の歴史や個人の記憶に紐付いた長年の積み重ねに帰結しているのではないのでしょうか。それを元に考えれば、受け入れ難いという人が一定数出てくるのも理解できます。否定的な声については今までもこれからも理解を示し、今後ポジティブな考えに移行できる可能性もゼロではないと思います。

今回の数多くの声は少し飛躍した見方をすれば、山形村はこうあって欲しいという、かつて市町村合併の憂き目を乗り越え、村の継続を選んだ時の意思表示のような印象さえ感じました。

良くも悪くも注目している村民を他所目に、38年毎日働き続ける『ボー』は、今日も私たちに時を覚えてくれるでしょう。

最後にアンケートにご参加いただいた多くの村民の皆さま、ご協力いただいた市民タイムス様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

山形村サイレン豆知識

毎日のサイレン吹鳴が始まったのは70年前、小学校前にあった旧山形村役場が竣工した1953年(昭和28年)からだと思われま。現在のサイレンは、現役場が竣工した1986年(昭和61年)に新設されていますので、38年前から使われている2代目サイレンということになります。ちなみに初代サイレンはふるさと伝承館となった旧役場が取り壊される令和2年まで、昼と夕、役場のサイレンと同時に吹鳴を続けていました。意外と最近までです。モーターサイレンは長寿命ですが、そろそろ耐用年数が尽きることも考えられます。

CHALLENGE 館報

チャリカン! 山形村開村150周年記念「超マニアック三択クイズ!」2月号の答え

問題1 山形村は県内で何番目に小さい市町村でしょうか。

正解は…② 2番目に小さい

最も小さい市町村は小布施町(19.12km²)。山形村は長野県の村の中では最小(24.98km²)です。

問題2 山形村における、森林面積の比率は以下の内、どれが一番近いでしょう。(2020年時点)

正解は…② 約50%

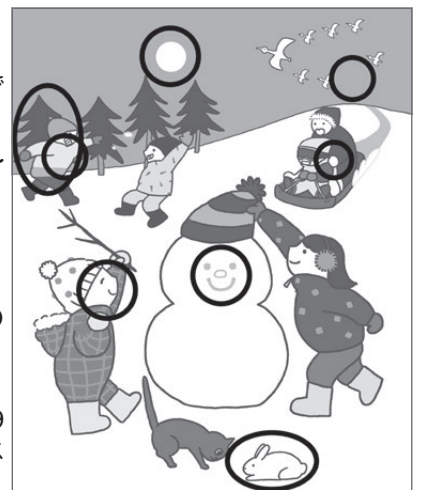
山形村の総面積に対して、森林面積は12.75km²なので、およそ51%です。(出典:山形村森林整備計画 変更計画書 (R5))

問題3 山形村の民有林において、最も材積(木材としての体積)が多い樹種は、以下の内どれでしょうか。

正解は…③ カラマツ

スギや広葉樹まで含めた総材積324,916m³の内、カラマツが198,759m³を占めています。伐って出すのに適した大きさに成長していますが、コストの問題で活用できていない状況にあります。

8つの違いを見つけられた?



「館報やまがたへの情報提供募集中」
身近な情報・感想をお寄せください!
フォーム 下のQRコードを読み取ってください。
電話 山形村公民館 ☎0263-98-3155



山形村公民館報『館報やまがた』No.815 3月号 令和6年3月発行
編集と発行/長野県東筑摩郡山形村公民館 印刷/カシヨ株式会社

館報やまがたのバックナンバーは村のホームページ(こちらのQRコードから)でも見ることができます→

